（２） かぼちゃ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 立枯病 *Fusarium solani* f.sp.*cucurbitae*	1.床土は排水のよい無病のものを使う。 2.連作を避ける。 3.種子は無病株から採取する 4.発病株は速やかに抜き取り、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	播種前 （湿粉衣）	3 M3･1	トリフミン水和剤 (混)ベンレートT水和剤２０
		土壌消毒	－ － － － －･－	クロールピクリン ドロクロール ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤 （混）ソイリーン
2 つる枯病 *Didymella* *bryoniae*	1.被害植物のついた支柱やハウス資材はよく消毒する。 2.ポリマルチや敷わらを行う。 3.排水を良好にする。 4.発病苗は本圃の伝染源となるので植えない。 5.窒素過多は発病を助長する。 6.連作を避ける。 7.被害茎葉は除去し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ジマンダイセン水和剤はべと病にも登録がある。	発病初期	M3	ジマンダイセン水和剤
3 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.ポリマルチを行う。 2.病葉、被害果は除去して埋める。			
4 菌核病 *Sclerotinia* *sclerotiorum*	1.連作を避ける。 2.病葉、被害果は除去して埋める。 3.夏期に湛水可能な圃場は、高温時に20日以上湛水すると、菌核が死滅するので有効である。 4.ポリマルチ栽培を行う。	発病前から	2	スミレックス水和剤
5 疫病 *Phytophthora* *capsici*	1.排水を良好にし、溝の潅漑水を茎葉にかけない。 2.敷わらまたはポリマルチをする。 3.高うねにして、浅植えする。 4.発病果やつるは、圃場外の土中に埋める。 5.窒素質肥料の過剰施用は、本病の発生を助長するので避ける。 6.カボチャ､キュウリ､ピーマン等の疫病菌と同種なので、これらの作物との輪作は避ける。	発病前から	21 P7 M1 M3 M3 3･M3 M1･4 4･M5 11･M5 27･40 40･M5 40･M3	ランマンフロアブル アリエッティ水和剤 Zボルドー粉剤DL ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 （混）テーク水和剤 （混）リドミル銅水和剤 （混）フォリオゴールド (混)アミスターオプティフロアブル (混)ベトファイター顆粒水和剤 （混）プロポーズ顆粒水和剤 （混）カンパネラ水和剤
6 べと病 *Pseudoperonospora* *cubensis*	1.連作を避け、圃場の衛生に努める。 2.排水をよくし、多湿にならないようにする。 3.敷わらまたはポリマルチをする。 4.ハウスでは日中の換気を十分に行う。 5.病葉は早めに摘除する。	発病前から	11 21 P7 M1 M3 M5 3･M3 4･M5 11･M5 40･M1 40･M3 40･M5	ストロビーフロアブル ランマンフロアブル アリエッティ水和剤 キノンドー水和剤４０ ジマンダイセン水和剤 ダコニール１０００ （混）テーク水和剤 （混）フォリオゴールド (混)アミスターオプティフロアブル (混)フェスティバルC水和剤 （混）カンパネラ水和剤 （混）プロポーズ顆粒水和剤

かぼちゃ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
7 うどんこ病 *Podosphaera xanthii* *Oidium citrulli* *Oidium* sp.	1.生育後半には老化した下葉を摘除し、通風と採光を図る。 2.収穫後の植物残さは圃場に放置せず、早めに処分する。 3.肥切れを避ける。	発病初期から	3	トリフミン水和剤
			3	ルビゲン水和剤
			3	ラリー水和剤
			9	フルピカフロアブル
			11	ストロビーフロアブル
			19	ポリオキシンＡＬ水溶剤
			-	サンヨール
			M2	イオウフロアブル
			M5	ダコニール１０００
			M7	ベルクート水和剤
			M7	ベルクートフロアブル
			NC	ハーモメイト水溶剤
			M10	モレスタン水和剤
			M10	パルミノ
			3･M3	（混）テーク水和剤
			U6･3	（混）パンチョＴＦ顆粒水和剤
			11･7	（混）シグナムＷＤＧ
			NC･M1	（混）ジーファイン水和剤
			M2･M1	（混）クリーンワイドフロアブル
8 褐斑細菌病 *Xanthomonas cucurbitae* pv. *cucurbitae*	1.排水を良好にする。 2.密植を避け、通風を良好にする。 3.肥料切れにならないように肥培管理に注意する。 4.収穫後の茎葉などは圃場外に持ち出し、処分する。	発病初期	M1	Ｚボルドー
9 アブラムシ類 （モザイク病 ＣＭＶ ＷＭＶ ＺＹＭＶ ＰＲＳＶ）	1.モザイク病が発病している株は早急に取り除く。 2.圃場の周辺に防虫ネットを高さ1.3mくらいにはったり、シルバーポリマルチ、シルバーストライプマルチ及びシルバーテープをするとアブラムシ類の飛来が少なくなる 3.圃場とその周辺の除草に努める。	播種時	4A	モスピラン粒剤
		定植前日～定植時	4A	スタークル顆粒水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
		定植時	4A	ダントツ粒剤
			4A	モスピラン粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		発生初期	3A	アグロスリン乳剤
			3A	アディオン乳剤
			3A	マブリック水和剤２０
			3A	ロディー乳剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
10 コナジラミ類	1.苗による持ち込みに注意する。 2.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 3.被害植物や雑草は除去後に土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。	定植時	4A	アドマイヤー１粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		発生初期	3A	トレボン乳剤
			21A	サンマイトフロアブル
11 ウリハムシ	1.シルバーポリフィルムによるマルチを行う。	発生初期	4A	ダントツ水溶剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			3A	トレボン乳剤
12 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.圃場周辺の雑草処理を徹底する。	発生初期	3A	アグロスリン乳剤
			5	ディアナＳＣ

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

かぼちゃ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
13 アザミウマ類	1.苗で本圃に持ち込まない。 2.シルバーマルチをする。 3.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。	定植時	4A	アドマイヤー1粒剤
		発生初期	3A 6	アグロスリン乳剤 アファーム乳剤
14 ハダニ類	1.圃場内や周辺の雑草防除を徹底する。 2.作物残さを放置すれば、ハダニの増殖源となるので、早めに処分する	発生初期	20B	カネマイトフロアブル
15 タネバエ	1.成虫は有機物の腐敗臭に誘引されるので注意する。 2.レタス、ハクサイ、キャベツ等の残根を処分する。	植付時	1B	ダイアジノン粒剤3
16 ケラ	1.土地の乾燥を図り、未熟堆肥の施用を避ける。	植付時	1B	ダイアジノン粒剤3
17 センチュウ類	1.水田に転換可能な畑では、２～３年に１回の割合で水田に戻す。 2.苗からの持ち込みを防止するため、センチュウ類や病害のおそれのない用土で育苗する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.消毒方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。 2.パストリア水和剤はネコブセンチュウに登録がある。 3.ソイリーンは、ネグサレセンチュウ、ネコブセンチュウに登録がある。	土壌消毒	8B 8B 8B 8A･8B	クロールピクリン ドロクロール クロルピクリン錠剤 (混)ソイリーン
		定植前	-(生)	(生)パストリア水和剤